

# 接続語 レベル4

名前 \_\_\_\_\_ 日前 \_\_\_\_\_

1 次の文章の空欄(1)～(5)にあてはまる言葉をそれぞれ次のア～オから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

最近、若者との会話の中で「意識高い系」という言葉をよく聞くようになりました。最初にこの言葉を耳にした時に私が感じたのは「意識が高いのは良いことだ」ということです。すなわち「成長を目指してさまざまな事柄に深く注意を払うこと」は素晴らしいこと以外の何物でもないと思っていました。

(1) \_\_\_\_\_ 話を聞くうちに、彼らの言う「意識高い系」というのはそういう文脈ではないことがだんだんとわかってきました。彼らの言う「意識高い系」という言葉は「自分を過剰に演出するのにな中身が伴っていない者」や「前向きすぎて空回りしている者」をばかにして言う言葉だったのです。私は悲しい気持ちになりました。

(2) \_\_\_\_\_、若いうちは誰も成長の過程において、自分を大きく見せようとしたり、前向きになりすぎて失敗したりするものだからです。言い換えれば、恥ずかしい体験は成長への糧なのです。失敗しながら大きくなればいいのです。

(3) \_\_\_\_\_ 私は若者には「あいつは意識高い系だ」と誰かを指差して笑う側ではなく、

(4) \_\_\_\_\_ 笑われ

(5) \_\_\_\_\_ それは若者だけに許された特権です。逆に言えばおじさんおばさんになる頃には、空回りでない行動をする中身のある人になっていてほしいと願っています。

ア ただし      イ でも      ウ というのも      エ だから      オ むしろ

2 次の文章の空欄(6)～(10)にあてはまる言葉をそれぞれ次のカ～コから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

鎌倉時代の初期に鴨長明によって書かれた随筆『方丈記』は「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず」というフレーズで始まります。これは「流れ行く河の流れはとぎれることなく続き、その上、その河の水はもとの水ではない」という意味です。ここで



鴨長明が述べたかったことは(6) 河川のことにとどまりません。一見河は同じように見えても、先程流れていた水はもう遠くへ行ってしまう、目の前を流れている水は別の水ですが、(7) がある人がここにいてもその人は数時間前とはもう別の存在(そんざい)なのです。(8) 人間の身体の中では一日一兆個の細胞(ぼうぼう)が入れ替(か)わると言われています。これ一つをとってみても、人間は一瞬(しゅん)たりとも同じ存在であり続けるはずがありません。そしてこれはこの世に存在するあらゆるものに当てはまります。全てのものが日々変化し続けていきます。(9) この世には「常(つね)に同じであり続けるものは決して存在しない」ということです。こういった考え方を「無常(むじょう)」と呼びます。『方丈記』は仏教的無常観を基調とした随筆の名作として知られています。(10) 機会があれば読んでみてください。

簡単に キ 要するに ク たとえば ケ 同様に コ ぜひ